

# 1-1

演題	ぴかぴか一年生看取り奮闘記
副題	～困難事例から学ぶ、これからのかわいの家～

看取りケア
困難事例

法人名	社会福祉法人 奉優会
施設名	特別養護老人ホームかわいの家

発表者名 (職種)	小澤 考平 介護支援専門員	都道府県	神奈川県
共同発表者	三木 貴子	住所	神奈川県横浜市旭区川井宿町 69-1
共同発表者		TEL	045-954-4500
共同発表者		FAX	045-954-4499
共同発表者		メールアドレス	kawainoie@foryou.or.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	緑豊かな閑静な住宅街の中に平成 22 年 4 月に開所しました。 「あたりまえの生活の実現」という理念のもと、今までの暮らしを継続していただきたいという思いから、多職種連携と個別ケアを推進しております。
---------------------------	--

## 研究の目的、PR ポイント

高齢者人口の増加から、慢性疾患を抱えるご高齢の方が、コロナ禍も重なり、医療機関での受入が困難になるケースも多く、より高齢者施設での看取り支援が重要視されている。

そんな中、かわいの家では「コロナ禍での看取り支援」のあり方、ご入居者様・ご家族様・職員を取り巻く環境にスポットをあて、今後のケアに活かしていく為、事例研究としてまとめている。

## 取り組んだ課題

- ① 新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっている中での看取り支援のあり方
- ② ご家族様が望まれる看取り支援を考える
- ③ 新人職員が不安なく、安心したケアを行えるよう、多職種連携での看取り支援

## 具体的な取り組み

コロナ禍の影響が甚大な中、施設内での看取り支援も過去に例をみないペースでご逝去が続いており、コロナ禍での看取りのあり方、ご家族様の真意を紐解き、満足のいく支援とは何かについて考える

- ① コロナ禍での看取り支援の取り組み
  - ② ご家族の望まれていた看取り支援とは
  - ③ 不安なく寄り添える看取り支援とは
- 1つ目は、コロナ禍での看取り支援を実践し、以前とは異なる対応方法から多くの学びを得る
- 2つ目は、ご家族を交えたカンファレンスを高頻度で実施するも、最期まで施設での看取りもしくは医療機関への受診を検討され続けており、ご本人、ご家族の立場に立った支援のあり方を施設全体で検討し取り組む
- 3つ目は、新人ユニット職員が看取り支援について未熟であり、ご本人、ご家族との向き合い方について学ぶ

## 活動の成果と評価

- ① 最期を迎える数日間、ご本人様、ご家族様はご一緒に過ごされ、ご家族様とともにエンゼルケアを行うことができた。コロナ禍でもできる看取り

支援を実践することができた

- ② 最期まで施設での看取りがよいか、医療機関への受診がよいかで悩んでいたが、多くのカンファレンスを開催することで、最終的には施設での看取りを行うことができた
- ③ ご入居者様の最期を迎える支援を OJT、OFF-JT から学び、抱えていた不安を解消することができた

## 今後の課題

- ① 今年度、コロナ禍が明ける年になることから、看取り支援だけではなく、滞ってしまっていた各種支援の再開が急務である
- ② ご家族様の真意を入居前から常に汲み取り、最善の支援を提供できるようにしていく
- ③ 対面研修が滞ってしまっていたことから、今年度は実践的な内部研修を積極的に行い、不安の解消だけではなく、知識技術の向上を図り、ご入居者様・ご家族様・職員の満足度をより高めていきたい